

「第2次京都市生活安全（防犯・事故防止）基本計画【改定版】（案）」
に関する市民意見への対応

A：見直し案に反映するもの（9件）

B：見直し案に記載済み又は趣旨に含まれ、賛同いただいているもの（100件）

C：今後、施策を検討する際に参考とするもの（12件）

No.	御意見の趣旨	件数	対応
第2章 計画の見直し			
1	市民アンケート調査をどう反映したのかが分かりにくい。	1	A
2	「自分たちの街は自分たちで守る」という意識が高くなったり、犯罪や事故が減っているというのは、これまでの取組の成果が上がっていることを示している。ただ生活への不安感が高いというのも感覚的に理解できるし、そういった意味で数が少なくても精神的な被害の大きい犯罪への対策に重点を置いていくことは重要である。	1	B
3	防犯意識や交通安全の意識を高く持つことと、安心感を持つこと（犯罪や事故にあう可能性を低く見積もる状態）は相反する部分もあると考えられるため、両立することは困難であると感じた。	1	B
4	刑法犯認知件数や交通事故死傷者数等が順調に減少していることは、市民として喜ばしいことであり、様々な要因があるとは思いますが、行政が取り組まれてきたことの方角性が正しかったという証明であると思います。目標値を達成したことによる計画の見直しとは、素晴らしいことであり、見直し視点の中にも、数値だけではなく、京都市が実際に問題としているところを改善するための項目が随所に表わされており、頼もしくも感じます。	1	B
5	自治体等の防犯活動率を高めるためにはどうすればよいのか、という課題があるかと思っています。	1	B
6	犯罪発生認知件数の減少数は大きいですが、加害者側の手口が巧妙化して気付いていないものがあるのではと感じた。	1	B
7	犯罪事故に遭う可能性・危険性が高いことを意識している市民の割合が高いのに対して、地域で防犯事故防止面での協力の必要性について、重要と感じている市民が多いのは良いことだと思う。	1	B
8	事故や犯罪が減っているのによいと思いますが、地域住民の繋がりが薄いなどの原因で、安心して暮らせると答えた人が少ないので、もっと地域住民の繋がりを強めるべきだと思います。	1	B
第3章 基本的な考え方			
9	市民意見募集冊子の2ページの表について、数値の出典が記載されていない。	1	A
10	防犯ボランティア団体は、地域の安心安全のためには不可欠であり、活動内容の周知などの支援で、防犯ボランティア団体を増加してほしい。	5	B
11	安心・安全のまちづくりのためには、地域コミュニティの活性化は重要だと思う。地域コミュニティを活性化させ、隣人やご近所付き合いを大切にすることが、自然と防犯につながると思う。	5	B
12	担い手の創出について、現在は高齢者が核となっているので、しっかりと考えてもらうことは良いことだと思う。	2	B
13	各地域によって課題は違うため、その地域ごとの課題を抽出して地域主体で課題解決に取り組むことは重要です。その意味で「世界一安心安全おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動」で各区に推進組織が作られたのは良いと思います。今後も関係機関でしっかり連携して皆さんの安心に繋がる対策を進めて欲しいと思います。	1	B
14	生活安全について、防犯はやはり地域からだと思いますので、引き続き取り組みを進めてほしいと思います。	1	B

15	子育て世帯の京都市への移住を促進する観点からも、生活安全及び交通安全を確保することが非常に重要なことであり、高い目標を持つぐらいの気構えでよいと思う。観光客ばかりに力を注ぐのではなく、本計画のように京都市民の更なる安寧に繋がる取組を充実させるべき。地域をはじめ、学校、企業、NPO、行政などが一丸となって取り組めるような計画にしてもらいたい。	1	B
16	犯罪件数等の数値目標を改めて設置しているのはいいことだと思う。	1	B
17	全体的な意見として、高齢社会がどんどん進展していく中で、人口の減少、高齢化を想定した計画を作成する必要があると思う。	1	B
18	人と人とのつながりが大切であり、地域の安全の基本だと思います。私は日頃の声掛けを大切にしている。安心のネットワークがあるといいと思います。	1	B
19	犯罪の件数は減っているのに市民の安心・安全の実感に繋がっていないことは大きな課題だと思います。地域全体で協力して防犯活動に取り組んでいただけたら、少しでも安心に繋がるのではないかと思います。	1	B
20	「互いに助け合う、犯罪や事故が少ないまち」という将来像はとてもすてきだと感じました。そのためには、地域の方、警察官との交流をもっと増やしていくべきではないかと感じました。地域の方に話しかけてみるようなパトロールも取り入れてみても良いのではないかと思います。	1	B
21	目標値について、さらに高い目標に変更していくことが望ましい。また、当初の目標指標だけではなく、時代の変遷とともに、子ども・高齢者等の被害者別の指標にするなど、新たな目標を加えてはどうか。	3	C
22	府警、区役所、自治会、学校が連携したネットワークが各区であると思うが、名前だけになってしまい、実際には機能していないのではないかと感じる。この機会に防犯のネットワークを再構築していただきたい。特に地域コミュニティにもっと府警が関わっていただければ、市民としては安心安全の担保になると思います。	1	C
第4章 生活安全の取組方向			
23	市内の犯罪発生認知件数や交通事故発生件数が減っているのは良いことだが、気になるのは自分たちが居住している地域が安全かどうかである。民泊が広がっており、安全な生活環境が脅かされることのないようお願いしたい。	3	A
24	生活安全の取組方向の取組事業について、事業名だけでは、どこが担当しているか分からず、行政内部できちんと連携しているか分からない。	2	A
25	女性や障害のある人という新たな視点が設けられたのは良いが、視覚的に目立たない。	1	A
26	生活安全（防犯・事故防止）基本計画の18ページの「注意喚起ライン」とは何か。	1	A
27	犯罪や交通事故の死傷者が大幅に減少していることに驚いた。市民の安心感の醸成は、テレビなどで見る事件や事故を見て不安に思う人もいると思うので難しいと思うが、件数が減少していることをもっとアピールしていけば、安心感の醸成に繋がると思う。	8	B
28	地域の防犯活動は、様々な居住形態・世代の世帯を取り込んでいくことが重要だと思う。時間的制約などがある方、比較的若い方々が、気軽に参加できる機会や防犯活動の情報を提供するなど、地域防犯活動への参加を促す仕組みを検討してみてもどうか。	7	B
29	大通りを少し外れると街灯がなく人気がないから等間隔で少しだけでも街灯が増設されたいなと思う。	7	B
30	性犯罪・性暴力対策について、相談窓口に女性を増やし、相談しやすい環境が必要であり、また学校や職場で性教育もしっかり行うなど、対策を進めてほしい。	3	B
31	学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」など学生防犯ボランティアの活動に、地域の方も参加してもらえたら、更に啓発活動ができると思う。	2	B

32	対象別安全施策について、「女性」が追加されたことは良いことだと思う。性犯罪やDVの被害者の割合としては圧倒的に女性が多いと思うので、取組を進めてもらいたい。	2	B
33	京都市は観光地があり、海外等から多くの人が来るため、その分犯罪も増えると思います。そのため、女性や子どもの安全を守るためにも防犯カメラ設置の強化は非常に効果的だと思います。	2	B
34	学校の周りや細い道などに街灯が少ない場所が見受けられるので街灯などを増やすか地元の人やボランティアの方々と協力してパトロールなどを定期的にした方が良いと思います。	1	B
35	福祉や医療、経済と色々な課題に取り組んでおられるが、いずれの分野も生活安全の趣旨を踏まえて進めていくべきと考える。その点生活安全計画は全てのカテゴリーの横串を刺す進め方を明示しており良いと思う。	1	B
36	対象別安全施策について、「障害のある人」が個別に設定されたことは良いことだと思う。しっかりと取り組んでほしい。	1	B
37	子どもや女性、高齢者が被害者となる犯罪が増えているように感じる。そうした犯罪を防止するには地域の目が必要だと思うので、市民が積極的に地域に目を向けるような取組を行ってほしい。	1	B
38	計画（案）の中にもあるように市民・事業者・行政がそれぞれの役割をしっかりと認識し、取り組んでいくことが安心・安全のまち京都を作っていくうえで必要だと考えています。この計画が市民・事業者へのそのような意識の醸成に繋がることを願っています。	1	B
39	防犯推進委員や自治会での防犯活動があまり認識されていないのでは。そうした活動を周知することで市民の防犯意識の底上げができ、自治会加入などの契機になるのではないかと。	1	B
40	観光旅行者を対象とした安全施策に引き続き取り組んでいただきたい。防犯・事故防止の取り組みがさらに広がるよう、神社仏閣及び観光施設等を対象にさらに周知を図るべき。	1	B
41	今後、地域における防犯活動の取り組みを強化するという方向性はあるが、市民アンケートの結果を見ると、そもそも防犯に対して、地域づくりで取り組むという認識が低いように感じる。まずは、地域で行う防犯対策について、周知活動の充実等により啓発を行う必要があるのではないかと。	1	B
42	親に対する波及効果も期待できるので、子どもへの啓発が非常に重要だと思う。	1	B
43	観光客、特に外国からの人が安心して安全に滞在してもらえるよう配慮することは大賛成であるが、逆に市民も気持ちよく「おもてなし」の気持ちになればたまたま考える時、観光客に対して、日本のマナーやエチケットをさりげなく伝えることが、大切ではないかと思う。	1	B
44	高齢者をターゲットとした、振り込め詐欺による犯罪が減らない。振り込め詐欺に関して、年に1回は詐欺対策講習会開催が必須だと思う。また、金融機関や大学と連携した注意喚起も必要。	1	B
45	生活安全、交通安全を計画する際は、観光客や京都市以外から通勤者に対して、きちんと周知していく工夫が必要である。様々な媒体やイベントでの周知、外国語表記の啓発、他の市町村との連携も必要である。	1	B
46	施策を進めるうえでは、行政、警察、地域が連携し、ハード面、ソフト面での対策を同時に進め、また地域ボランティア活動団体への協力も要請し、進めることが必要である。	1	B
47	地域の住民が安心して暮らせる安全な街をめざし、特に子ども達や高齢者に対し、各種団体の事業を通じ生活安全や交通対策について、研修等を行っています。子ども達に正しいマナーを指導する立場にある大人たち（保護者を含め）の意識が欠けている人が多いため、大人たちに対しても、意識を高める対策が必要である。	1	B
48	いざひったくりにあった場合、どう対処していけばいいのか、ひったくりにあわないようにするには何を注意すればよいのかなど、地域でもっとそういった防犯活動を行った方が良いのではないのでしょうか。小学校などでの防犯教室をもっとやっていくべきだと考えます。	1	B
49	学生防犯ボランティア活動を通して自分たちが地域パトロールをすることでそれだけで防犯に役立っているなと身を通して実感しました。	1	B

50	「啓発活動の意識を高めるための担い手の創出をするために」について、幼児、児童、生徒と年齢が高くなるほどに希薄になっていく傾向にあります。これらが成人して自転車・車の運転を軽んじるだと思います。人に対するやさしさができる人に育てる教育の推進を願います。	1	B
51	子どもたちには「周りをよく見て、絶対に知らない人には関わらないように」と言い聞かせていますが、子どもを犯罪や事故から守るには、学校での教育、家庭での会話等が大切だと思います。	1	B
52	学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」の知名度が低いので、担い手が少ないため、アピールできる場が欲しい。	1	B
53	防犯ならばそれぞれの家に強化ガラスを使用したり、小さなこどもにブザーを携帯させたりすることが有効だと思う。	1	B
54	安心安全な都市景観上の基本的な考え方と戦略（地域への見守りの眼差しを演出する重要性とは）門掃きを励行し落書きやいたずらシールを放置しない、させないことが重要です。理想として、学術的な「割れ窓理論」をベースとし玄関口（門の内や外）に美化意識のシンボルである草花で善意や愛情を演出することは、地域の防犯力や交通マナー、モラルの低下を防ぎ、最全の対策と言えるのではないかと思います。ぜひ、府警、京都府や京都市の関連担当課との連携された今までにない積極的な広報啓発の新展開を願うものです。	1	B
55	「歩きスマホ」による事故も増えているため、注意・指導を行ってほしい。そして、「子どもの携帯情報通信機器利用に関わる教育支援・啓発」に組み込んでほしい。	1	B
56	私が生活している地域は、未成年者による喫煙や中学生の原付運転などの実態があり、地域の方々などの迷惑になっていると思う。また、夜間にコンビニ付近等にたむろするなどしていることもあり、絡まれるなどの危険性もあります。青少年の健全な育成に対する対策の強化をお願いします。	1	B
57	小さな子どもを守り、犯罪へ巻き込まれることを防ぐためには、安全パトロールの強化、集団下校等を積極的に取り組んでほしい。	1	B
58	幼稚園児～大学生が携帯・スマホでの犯罪に巻き込まれたり、自らが使用を誤り罪を犯すケースが多発している。ケータイ教室開講を定期的に各学校で行うなど、具体的対策を早急に行うべきである。	1	B
59	防犯ブザーを配布する。	1	B
60	人通りの少ない場所は特にパトロールなどを実施すべき。	1	B
61	街灯の増加や危険な道の周知等を工夫し、犯罪や事故が起こりにくい環境づくりを心掛ける。	1	B
62	住宅街でのボランティアによる夜間の見回りなどを行う地域での防犯活動の見直しのため、休日を利用し、子ども連れの親子や若者が積極的に集まる仕組みを警察や消防局と連携し、企画する。	1	B
63	犯罪や事故が少しでも減るよう、努力を続けてもらいたい。京都市は一方通行が多く、抜け道のようにになっている細い道で車がスピードを落とさないで走行することがあり、また、夜は暗く不安を感じることもある。生活道路の安全確保は、防犯への対策と同時に検討してもらえると、より安心感の向上につながるのではないかと思います。	1	C
64	地域活動への参加を促進させる必要性はよく理解できるが、私が活動している団体は、活動費が足りない状況で、パトロール資機材などを買う資金が十分でない。現在も補助金をいただいていることは把握しているが、それ以外に必要な物品の購入費の支援するような予算はないのか。	1	C
65	生活安全（防犯・事故防止）基本計画の13ページに北区役所が実施している「まちづくり応援隊」を掲載してみてもどうか。	1	C
66	国際観光古都として「世界に京都があつてよかった」と感じとり、京都ファンを作り、リピーターになっていただくために①バリアフリーの完備・海外の方は大きな荷物を持っているため、乗換の際に実態調査し、エスカレータ、エレベータを完備②ユニバーサルデザインの完備・案内看板、標識の英語、中国語、韓国語の徹底。③世界一美しいまち、世界一安心安全なまちを目指し、推進してほしい。	1	C

67	当学区では住民福祉協議会が中心になり、小学校の下校時に「見守り」活動に奉仕していますが、見守り活動とはP T Aが中心に活動するのではないのでしょうか。	1	C
68	夜遅くなってからの女性等タクシー利用者のタクシー料金減額みたいなことをしてほしい。	1	C
第5章 計画の推進及び進化			
69	犯罪や事故の防止は、警察ともしっかりと連携し、取組を進めてほしい。	8	B
70	これまではとにかく犯罪認知件数を減らすことが第一の目標だったが、次の段階へステップアップする時期が来ているのかもしれない。次の計画は4年後になると思うが、その間に不安感に繋がる犯罪の分析をしっかりしていただき、次の目標に反映して欲しい。	1	B
71	生活安全・交通安全の取組は大切だが、計画だけ立てて、それで終わりではなんにもならない。継続していくことが大切なので、地道な取組を引き続き応援して欲しい。	1	B
72	大変充実した内容の計画案だと思うが、近年、高齢者による暴走・逆送事故や、児童虐待などの痛ましい事件が後を絶たない。計画をしっかりと実行し、安心して住めるまちにしてほしい。	1	B
73	市が防犯や事故防止の計画を立て、取り組むことは大変良い。「計画を立てて終わり」とならないよう実効あるものにしてほしい。また、「自分たちで守る」意識が安心感の醸成に繋がると思う。	1	B
74	両計画案とも、社会状況を踏まえながら成果と課題を見据え、きめ細やかに計画の案を作成されていると思います。ここに世界に誇る京都ならではの安心・安全なまちづくりを期待しています。なかなか難しいことですが、人としての意識・連携・共汗のキーワードが活かされるまちづくりが進むことを期待しています。計画推進に向けて、人員と予算の手立ても不可欠かと思いました。	1	B
75	性被害に遭うのは女性だけでなく、男性の方なども遭うので、そのようなことを一言でいいので、広報された方がいいと思います。	1	C
76	取組事業については、関連する事業をただ並べるだけではなく、どの取り組みが、これまでの成果に効果があり、また効果がなかった事業については今度どのように改善していくか検討が必要ではないか。でないと、一定成果が上がっていることと京都市の取組の関係性が不明瞭である。	1	C